

海南町マルチメディア・モデル農村展開事業

2 Y-1

<sup>1</sup>茂木武士 <sup>1</sup>横山繁盛 <sup>1</sup>成尾道夫 <sup>2</sup>能田益弘 <sup>3</sup>森井昌克 <sup>2</sup>徳村晃  
<sup>1</sup>三菱電機株式会社 <sup>2</sup>徳島県海南町 <sup>3</sup>徳島大学

1. はじめに

本稿では、平成9年度に通信・放送機構のマルチメディアモデル農村展開事業に採択された徳島県海部郡海南町にて構築されたシステムの概要とその実験内容について報告する。

2. 地域情報放送システム

徳島県海部郡海南町は徳島市から南に約70km離れた高知県境付近に位置しており、テレビ電波がとどきにくいことから難視聴用同軸CATVケーブル網が町内各所に張り巡らされている。住民はこの共聴施設を運営している共聴組合に加入することによりテレビ放送を視聴している。この既存インフラである共聴CATV網を利用した「地域情報放送システム」のイメージを図1に示す。

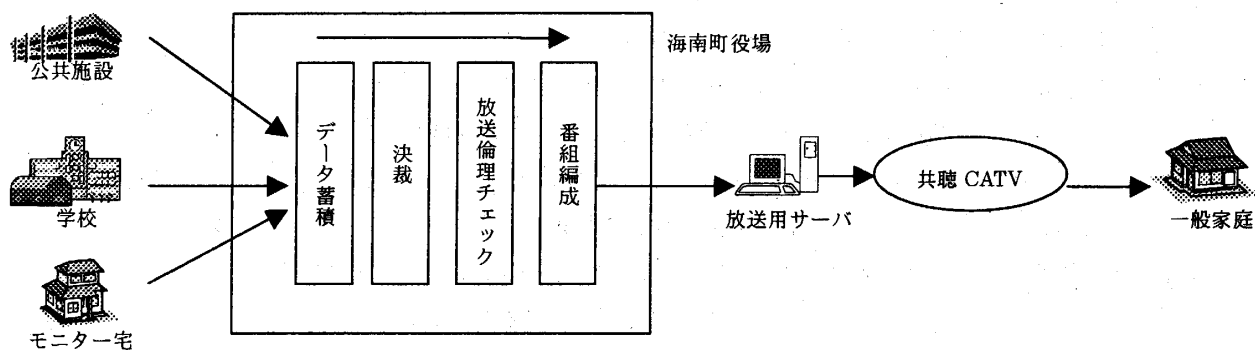


図1 地域情報放送システムイメージ図

身の回りの出来事や各公共施設や学校からのお知らせ、役場からの行政情報等をあらかじめ用意されたテンプレートを使用したり、手書きによる情報をイメージスキャナーで読みこんでhtml形式のコンテンツとして作成して役場のサーバに蓄積する。全ての住民は、町内の各公共施設に設置されたパソコンを使用して容易にお知らせを作成することができる。

役場や学校の責任者による決裁を経た後、放送に不適切なコンテンツがないかどうかのチェックを行い番組の編成を行なう。番組は「行政」、「商工」、「学園」、「公共」の4つの分野から成り、この4つの番組を15分間隔にて時間設定することが可能である。

次に各共聴施設に設置された放送用サーバにデータを転送する。転送方法はftpを使用しての夜間の自動転送と任意時の手動転送が可能である。

Tokushima-ken Kainancho Experimental System for development of the Multi-media Rural System

Takeshi Mogi Sigemori Yokoyama Michio Naruo Information System Works, Mitsubishi Electric Corporation, Kanagawa, Japan

Masuhiko Noda Assistant chief of 21shitsu, Kainan Town Office, Japan

Masakatsu Morii Department of Information Science and Intelligent Systems, Faculty of Engineering, The University of Tokushima, Japan

Akira Tokumura Assistant Town Major of Kainan town, Japan

放送用サーバでは編成された番組通りにコンテンツを自動ページめくりさせるとともにディスプレイへの出力信号をNTSC信号に変換し、共聴CATVの空きチャンネルに送出するという仕組みである。一般家庭では自宅のテレビの2チャンネルにてこの放送を閲覧し、各種情報を得ることが可能である。

### 3. 放送不適切コンテンツの判定支援方式（放送倫理チェック支援実験）

一般住民からの情報エントリにより、コンテンツの多様化、多量化が予想され、放送する上での不適切なコンテンツをチェックする判定者の作業の負荷が大きくなることが想定される。このため放送に不適切なコンテンツのチェックをある程度自動化して効果的な危険度判定がおこなれるような方式を検討しており、その概要を述べる。

現在の段階では放送不適切コンテンツを完全に自動判断することは困難であり、最終的には人間に頼らざるを得ないのが現状である。しかし登録されたコンテンツに危険度という尺度を独自に設定して人間が判断する前に危険度の高い順にソートして表示し、放送可否判定者の作業負荷軽減及び、より妥当性のある危険度の算出方法を下記のように設定して現在実験中である。

危険値は、個人の危険値、年代・性別の危険値、分野の危険値から算出する。

- ① (個人の危険値) = (個人がこれまでに作成した不適切コンテンツ数) /  
(個人がこれまでに作成した総コンテンツ数)
- ② (年代・性別の危険値) = (その年代・性別の方がこれまでに作成した不適切コンテンツ数) /  
(その年代・性別の方がこれまでに作成した総コンテンツ数)
- ③ (分野の危険値) = (該当分野でこれまでに作成された不適切コンテンツ数) /  
(該当分野でこれまでに作成された総コンテンツ数)

但し、分母 = 0 の場合は、それぞれの危険値 = 1 とする。

$$\text{(総合危険値)} = K1 \times (\text{個人の危険値}) + K2 \times (\text{年代・性別の危険値}) + K3 \times (\text{分野の危険値})$$

K1、K2、K3 は、それぞれ重み係数で、 $K1 + K2 + K3 = 1$  とする。

最終的に人間が判断する段階で、総合危険値の高いコンテンツ順に並べて表示することによって、コンテンツの危険度判定の際の支援を行なう。

### 4. その他の実験

#### ① 情報プラザ実験

町内の公共施設及びモニタ宅に情報プラザ端末を設置し、住民が自由に地域情報発信できる情報プラザシステム実験。

#### ② 合成音声との融合放送実験

高齢者や障害者の方のために合成音声による放送の実用性実験。

#### ③ 時間帯別放送実験

放送時間帯を区別して放送することにより、視聴者への情報伝達の効率化実験。

### 5. おわりに

本実験では、既存の共聴CATVを利用した地域情報放送システムによる地域の情報発信を行なっているが、今後は気象、防災等のデータ発信や、動画による中継放送、及びコンテンツをWeb化することにより、大都市等への情報発信方法等を検討する。